

佑啓

ゆうけい

発行者

社会福祉法人 佑啓会

理事長 里見 吉英

〒290-0265

千葉県市原市今富 1110-1

TEL 0436-36-7611

FAX 0436-36-7612

編集者 広報委員会

失敗の日々から

並木 傑

今年の四月一日の辞令交付式で里見理事長に壇上へ呼ばれ、永年勤続表彰として海外研修の機会をいただけることとなった。数年前からそろそろ自分の番ではないかと期待を持ち始めたタイミングで新型コロナウイルスが流行。海外渡航を取り巻く環境は厳しくなり、自分には縁がなかったと半ば諦めかけていたので嬉しい誤算であった。一緒に呼ばれたのが、佑啓前々号で私のことに触れてくれた一番の相棒である皆川係長というのも嬉しさを倍増させた。平成十六年に二十一歳で佑啓会に入職してから二十一年間が経過し、今年度からふる里学舎木更津・潮見の施設長を拝命したが、これまで順風満帆とは言えない職場生活であった。

四人兄弟の末っ子である私の就職までなんとか持ちこたえていた家は、内定と同時に廃業。土地は売りに出され、卒業旅行から帰ると既に家は取り壊され更地になっていた。心の準備はしていたものの、あの寂しさは今も忘れられない。就職を機に初めての一人暮らしを始めたものの、末っ子故に家事なんてしたこともなく、家族に甘えた生活を送っていたので、



入社2年目中国旅行にて(右から2番目)

しかしその後も、ある程度慣れしてくると気を緩めてしまうという自身の悪い面にはほとほと嫌になる時期を迎えることになる。幹事であった職員旅行での大遅刻を筆頭に大きな失敗を繰り返し、優等生の皆川係長に比べ正反對のダメ職員であった。当時の共用パソコンには私が作った『恥』という名の

フォルダがあり、ありとあらゆる報告書が保存されていた。以降、後輩が何か失敗をすると、そこからデータをコピーして使用しているという噂もあったほどである。

七年目で大きな物損事故を起こし、出勤停止となった。「クビになるかもしれない」実家売り払い東京に移住した両親に伝えにも行った。私の就職まで家業を踏ん張ってくれた両親に申し訳ない気持ちでいたそんな折、里見理事長から東京に来ているからと食事のお誘いをいただいた。ホテルのレストランで食事をしながら、多くは語られなかったが、優しく励ましてくださった。謹慎中の会食だったので、このことは内緒にしておくように言われたが、十年以上経ったのもう時効とさせていた。こんな未熟者の一職員のために、わざわざ東京まで足を運び時間を割いていただけたことは今でも感謝しかない。この時が大きな分岐点となり、その後も多少の失敗はあれど気持ちを入れ替え、業務に励んできた。家庭を持ち、支えてくれる存在ができたことも、長く勤め続けられている大きな理由の一つである。

今回の海外研修の行き先はロサンゼルスとラスベガス。ちょうど佑啓会の評議員でもある澁谷弁護士が、所属事務所の研修でロサンゼルスに滞在しているという幸運も重なり、それならばもちろん里見常務も「行きますよ！」という流れで三名での渡航となった。飛行機とホテルだけ旅行会社で手配をして、行程のほとんどは澁谷評議員のアドバイスをいただきながら自分たちで考えた。更には我々の日程に合わせて、ロサンゼルスをご案内までしていただけたという、なんとも心強いサポートを得て、旅の夢は膨らむばかりであった。



の日程に合わせて、ロサンゼルスをご案内までしていただけたという、なんとも心強いサポートを得て、旅の夢は膨らむばかりであった。

そしていよいよ羽田空港から約十時間のフライトでロサンゼルス空港に到着。ホテルに向かう片側五車線の車内から見える高層ビル群を見て、日本とは比べ物にならないスケールの大きさに愕然とした。ロサンゼルスでは、私はドジャーススタジアムでの野球観戦、映画好きな皆川係長はハリウッド観光とそれぞれの希望を、澁谷評議員ご夫妻がコーディネートしてくださりどちらも最高の体験であった。それに加えて澁谷評議員が留学していた UCLA の見学、無人運転タクシー「Waymo（ウェイモ）」への乗車、巨大スクリーン施設「Cosmo」での NBA 観戦など、普通の観光では得られない貴重な体験を数多く盛り込んでいただいた。初めてのアメリカ旅行であった私たちにとって、現地で暮らす方の視点から案内し

ていただけたことは、贅沢の極みであった。

ロサンゼルスでの三日間を終えて、次の目的地ラスベガスへと国内線で向かった。移動の当日、ロサンゼルスでは移民政策に抗議するデモが暴徒化する事態に発展し、我々が宿泊していたエリアも外出禁止令が出ていた。日程がずれていれば危険に巻き込まれていたかもしれないと思うと、改めて海外にいることを実感した。

ラスベガスは砂漠の中にある光の都市。まさに夜の街は眠ることを知らず、どこを歩いても煌びやかなネオンと音楽、そして人々の熱気に満ち溢れていた。ホテルの隣室もパーティーの大音量で、眠らない街を体感した。そのせいもあって翌日、ラスベガス観光のメインであったヘリコプターでのグランドキャニオン遊覧では、揺れが心地よくついウトウト：常務にお叱りを受けてしまったが、眼下の景色は写真や映像で見えるよりもはるかに雄大で、自分の悩みや失敗など、ちっぽけに感じさせてくれる圧倒的な光景を体感する瞬間であった。その他にもシルクドソレイユのショー『O（オー）』の鑑賞等、エンターテインメントの最高峰を体験することができた。

旅行の後半になると皆川係長は少し体調が優れず、私はややホームシックとなったが、常務だけはパワー全開で、帰国前には「まだ帰りたくない！」と言っていた。やはり里見家には、庶民とは別の血が流れているのだと実感した。あつという間の七泊九日であったが、この旅を通じて、異文化に触れることで自分の価値観が揺さぶられるということを強く感じた。

日本では当たり前に思っていたことが、海外ではそうではない。人種も文化も違う人々が共存し、それぞれが自然体で生活している。車椅子の障害者や老人が人込みでも関係なく一人で外出をしており、それを見ず知らずの方が自然とサポートをしている場面を何度か見た。多様性を受け入れる姿勢や合理的な仕組みは、見習わないといけないと感じた反面、食事のおいしさや治安の良さでは日本は最高であると再確認ができた。

帰国する飛行機の中で、これまでの二十一年間を振り返っていた。更地になった実家の前で途方に暮れていた二十一歳。数々の失敗を繰り返した未熟者。そんな自分が、多くの方々に支えられ、許され、育てていただき、今こうしてアメリカから家族が待っている帰路についている。逃げ出したいときもあったが、ここまで続けてきて本当に良かったと感じた。

この貴重な機会を与えてくださった里見理事長、特別な体験を用意してくださりサポートいただいた澁谷評議員ご夫妻、そして快く送り出してくれた同僚の皆さんに心から感謝したい。今回の研修で得た経験や広がった視野、そして改めて胸に刻んだ感謝の気持ちは、私にとってかけがえのない財産となった。このご恩に報いるためにも、これから職員、そして利用者の皆様のために誠心誠意、職務に励んでいきたい。

（ふる里学舎木更津・潮見 施設長）

成長に合わせて

～ふる里学舎の安心感～

和田 麻里子

私達家族とふる里学舎との出会いは、自閉症スペクトラムの息子が三歳の頃でした。

発達の遅れが気になっていた息子は、市の発達相談を経て療育通いをしていました。その頃の息子は、単語の発語が増えてきたり、簡単な言葉であれば少しずつ理解することが出来る様になってきていましたが、まだまだ集団行動は難しい状況でしたので、年少からは児童発達支援に通うことを検討しました。

そこで市内の児発を見て回ったのですが、中でもそよかぜキッズは園長先生はじめ、職員の皆様のはつらつとした明るい雰囲気と利用者の子様達の楽しそうな笑顔が印象に残り、ここでお世話になれば、と思ったのを覚えています。

その後運良く入園することが出来たのですが、そよかぜキッズでの出会いは、私達にとって本当に大きな財産となりました。



職員の方々との出会い、息子に託ったのお友達との出会い、お友達のご家族との出会い。発達の遅れが分かってからは、この先どうなっていくのだろう、どうすれば良いのだろうという不安の方が大きかったですが、入園してからはその不安の雲がひとつひとつ晴れていく様な感覚でした。それは、優しく温かく子供達の支援をしてくださり、私達家族にも寄り添ってくださる職員の皆様と、同じ悩みを共有し、泣いたり笑ったり、行事では子供以上に全力で楽しむ明るいご家族の皆様、そして可愛い子供達のおかげであり、本当に感謝しております。

この様な環境の中で息子ものびのびとマイペースに過ごし、また一方で長所を伸ばしたり多くの成長を引き出していたできました。そんな充実した日々もあったという間に過ぎ去り、年長になる頃には就学先についての相談にも乗っていただきましたが、就学先と同じくらい気がかりだったのが放課後等デイサービスでした。需要が増える一方の昨今、通える事業所があるのか、送迎があるのか、何よりも親も子も安心して本人が楽しく通うことが出来るのか。心配は尽きません。ここでも何力所か見学に行きましたが、良さそうと思うと週一度程度利用できるかどうかで、ただでさえ就学準備で忙しい中大変気がかりでした。

ですから、その様な状況の中での「こどもの丘」の開所の知らせは何よりの朗報で、すぐに利用を希望しました。息子が年少の頃にクラスを受け持っていたいた職員の方がいらつしやったり、息子達と同じタイミングでそよかぜキッズの職員の方が異動になられたのも心強かったです。利用者側の年齢が上がったりステージが変わっても同じ法人の中で利用を続けられるのは本当に安心することができ、ふる里学舎の心強い点のひとつであると身を持って実感しました。四月から実際に利用を始めて以降も、息子もすぐに慣れ、好きなオモチャで遊んだり、送迎中のドライブや夏休みのプール遊びも楽しみにしています。自宅では余裕が

なく、なかなかさせてあげられないオヤツ作りやお料理のお手伝いの様子を伺い、「こんなこと出来るんだ！」と驚くこともしばしばで、進学した支援学校とはまた違った体験をさせていただくことが出来ており、感謝の日々です。息子も「こども（の丘）行こう！」とよく口にしており、嬉しく思います。



最後になりましたが、改めてまして、そよかぜキッズの存在があったからこそ、悩んだ時期を乗り越え、特性のある息子との生活が大変ながらも楽しめていると思います。今後はこどもの丘を中心として引き続きお世話になります。ご迷惑をおかけすることも多々あるかと思いますが、またこれからこちらで息子がどの様な成長を見せてくれるか私達家族も楽しみにしながら、笑顔で一一緒に歩んでいけたらと思います。

（ふる里学舎こどもの丘 保護者）

ふる里学舎こどもの丘

今年度オープンしました。ふる里学舎市川に併設されている放課後等デイサービスです。お子さんの成長に寄り添い、集団生活や遊びを通して社会性や協調性を育んでいけるように支援をしていきます。また、おでかけや季節のイベントなど楽しみとなる活動を設け、ご家族と共に健やかな成長を見守っていきます。

遊びも本気

佐藤 雅樹

入職して四カ月が経ち、一言で表すと「楽しい」という言葉が浮かぶ。利用者と一緒に生活し感情を分かち合ったり、気持ちを共有できたりすることが本当に楽しく、毎日が充実していると感じている。

私がこの佑啓会に入職した経緯は二年前に行った実習がきっかけだ。もともと保育士になる為に大学に入學し、施設実習の一環でこの佑啓会にやってきた。当時、障害者施設と聞いて身構えたのを今でも覚えていいる。今まで全くかわった事のない人と二週間過ごすという事に緊張と不安があり、実習前日の夜はほとんど眠ることができなかった。しかし、職員の方々がとても温かく迎え入れてくれ、利用者との関わり方を丁寧に教えてくれた。不安が払拭されるだけでなく、人と関わるのがこんなにも楽しいのかと気づかされたのだ。もっと利用者を知りたい、たくさんの人と関わりたいと思い、この佑啓会に入職し、船橋の青年寮に配属された。今年度オープンした事業所で、やることなすこと全て一から初めてで忙しい日々を送っている。

児童とも初めて顔を合わせたときに、お互い緊張していたが、一緒に遊ぶことで少しずつ打ち解けるようになり、今では「佐藤さんおはよう」と元気な声で挨拶をしてくれたり、学校のこと、生活のことを楽しそうに話してくれたりする。それが本当に嬉しく、みんなのお兄さんのような感覚になり、共に生活するのがとても楽しく感じている。児童たちの人生に関わることができる喜びがある一方、そこには大きな責任が伴う。自分の些細な言動一つで児童に大きな影響を与えかねない為、社会人として、お手本となれる行動をとっていききたい。

入職してしばらく経ち、松尾施設長との面談時、「利用者さんに関わ

る時に大事なことはなんだと思いきるか。」と質問された。私は表情、言葉遣いなどといった月並みな回答をしたのだが、「まずは利用者を好きになること」と話してください、人と接するときの表情や言葉遣いも人を好きになるという気持ちがあれば自然と出てくるものだと思いついたのだ。愛情をもって利用者に関わり、お互いに幸せだと思えるように「仕事も本気」で取り組んでいきたい。



また、先日の法人内交流会では「遊びも本気」という言葉を実際に感じる事ができた。バレーで活躍している先輩職員や同期、接戦を制した時の喜び、鳥肌が立つほどに心に響いた。バレーだけでなく、その応援も熱気を帯びており、雰囲気圧倒され、まさにお祭り騒ぎで遊びも本気という言葉を目で、耳で、肌で感じる事ができた。私は歌唱の部に参加させていただいた。自分のパートはアカペラで、音源もない、耳から聞こえるのは自分の声だけという極度の緊張の中で歌い切った。あまりの緊張に目の前の照明がまぶしいという記憶しか残っていなかったが、同じチームの応援や激励、熱い誉め言葉に涙ぐんでしまった。人の温かさに触れ、職員同士もこのように支えあって仕事も遊びも乗り越えてきたのだと感じた。笑って泣いて、たくさん感情を分かち合うこ

とができた。この気持ちを燃やし尽くすことなく、これからの仕事への活力にしていきたい。

（ふる里学舎船橋 支援員）

○●○○○○●●○○●●○

SNSへの協力をお願い

今回、佑啓会のSNSのフォローを促進するチラシを同封しました。SNSには「いいね」や「コメント」が多いほど、より多くの人の目に留まりやすくなる仕組みがあります。この仕組みを活かすことで、佑啓会の情報がフォロー以外の方にも表示されやすくなります。そうすることで、より多くの方に私たちの活動を知ってもらうことができ、福祉の仕事に興味を持つきっかけになります。

ぜひ、日頃からSNSをチェックして、投稿に「いいね」や「コメント」をいただけると嬉しいのです。皆様のご協力が、私たちの活動をさらに広げる力になります。

○●○○○○●●○○●●○

編集後記

近年の夏は一段と厳しい暑さが続いておりますが、今年は特に全国で四十度を超える地域が相次ぎ、予断を許さない状況です。

そのような猛暑の中、佑啓会では納涼祭や、利用者さんの夏祭りなど夏のイベントを盛大に開催いたしました。参加された皆様の熱気あふれる笑顔が、気温以上の盛り上がりを見せてくれました。今後もまだまだ行事は目白押しです。利用者さんと一緒に全力で楽しんでいきたいと思えます！そんな想いと共に佑啓一三三号をお届けします。

（支援員 栗川克明）